

令和6年度 学校経営の概要

1 学校経営に当たって

(1) 地域の実態

本校は由利本荘市中心部から東へ10kmほどの場所に位置し、学区は学校のすぐ傍を子吉川の支流である芋川が流れ、北側と南側は山に囲まれている農村地帯である。また、国道105号線や日沿道大内ジャンクション、道の駅があり、交通量が多い。地域住民の多くは、地元や本荘地域の企業等に勤めており、高齢者は農業を担っている。

保護者は学校に協力的で、PTA活動や奉仕作業等に積極的である。地域住民も学校教育に関心が高く、クラブ活動や安全・安心見守り隊、スポーツ少年団等への活動に協力的である。地域が一体となって子どもたちの安全や成長を見守ろうとする意識が高く、コミュニティ・スクールの機能や地域協働活動事業を生かしながら、地域に開かれた学校運営を進めている。

(2) 児童の実態

全校児童数は138名（男子83名、女子55名）で、本年度は通常の学級6学級及び特別支援学級2学級、計8学級の編制である。

生活面では、明るく伸び伸びと活動する児童が多く、始業前や休み時間には、グラウンドや体育館で性別や学年を超えて元気に遊ぶ姿が見られる。また、係や当番活動、児童委員会活動では、他者と協力して自分の役割を果たすことのできる児童が多く、縦割り活動でも、上級生が下級生に優しくかかわりながら、リーダーとして積極的に行動する姿が見られる。一方で、目標に向かって努力したり、失敗や間違いを恐れずに挑戦したりしようとする姿勢は十分とはいえない。また、児童は、保育園から固定された人間関係の中で生活していることから、多様な価値観や考え方に触れる機会が少なく、友達関係や集団の中での役割が固定化してしまう傾向にある。

学習面では、県学習状況調査や標準学力検査CRTの結果によると、県平均や全国平均と同程度の学年もある一方、平均を下回る学年もあり、個人差も大きい。与えられた課題に対しては真面目に取り組むことができるものの、自ら考えて判断したり、表現したりする力は十分とはいえない。また、特別な支援を要する子どもの割合が高く、個別の指導計画を立てて指導に当たっている。

(3) 学校の課題と取組

- ① 本校の児童は、自ら目標に向かって努力したり、失敗や間違いを恐れずに挑戦したりする姿勢が十分とはいえないことから、学校生活全体を通じて、児童の自ら考え、判断し、行動する力を育むことが本校の課題と捉えている。そのために、学習面では、児童一人一人が安心して学ぶことができ、その学びの充実が図られるよう、生徒指導の視点を生かした授業づくりを推進するとともに、児童一人一人の思いを生かす授業づくりに焦点を当てて授業改善を図っていく。また、活動面では、成長するためには失敗や間違いは絶対に必要であること、児童に対して手をかけ過ぎず、目をしっかりかけることについて共通理解を図るとともに、安心してチャレンジしたり、やり直したりすることのできる環境づくりに努め、児童を支えていく。
- ② 本校は特別支援学級のほか、通常の学級においても特別な支援を必要とする児童が多く在籍していることから、特別支援教育の充実が課題となっている。ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、児童に必要な指導や支援を行うことができるように、特別支援教育に係る研修により全教職員の理解を深めるとともに、特別支援教育アドバイザーのほか、保育園や支援学校、SSW等の関係機関との連携を積極的に行っていく。また、児童同士が互いの個性を認め合い、支え合うことができるような学級経営や授業づくりを推進していく。
- ③ 本校には時間外在校等時間が月45時間を超える教職員が一定数いる。県の「教職員の働き方改革推進計画」において、学校における働き方改革の目的の一つに、教員が授業を磨くための学びの時間の確保等が図られることで、教育の質を向上させることが示されている。教職員がゆとりをもって、気持ちよく働くことのできる職場環境づくりが、子どもたちのよりよい教育につながるとの認識のもと、教職員の率直な声に耳を傾けながら、前例や固定観念等にとらわれることなく業務改善を図るなど、柔軟な姿勢で働き方改革を推進していく。

2 学校教育目標について

「令和」の時代に入り、子どもたちを取り巻く環境は、少子高齢化や情報化、グローバル化の進展など、急激に大きく変化している。こうした状況の中、次代を担う子どもたちの「生きる力」を育むために、学校教育が果たす役割は大きい。小学校学習指導要領が全面実施となり5年目となる今年度は、前年度の反省を踏まえ、学習指導要領の理念を再確認し、これからの時代に求められる資質・能力を育成するための教育活動をPDC Aサイクルを用いて的確に展開していく必要がある。

秋田県では少子高齢化が加速度的に進行し、大内地域でも平成27年度・平成28年度の小・中学校統廃合により、現在の1中学校2小学校となった。秋田の将来を支える子どもたちが、変化が激しく予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、社会に貢献できるような生き方ができるように育てていかなければならない。そのためには、学校教育にあっても、以下の点に留意し、意図的に取り組んでいく必要がある。

- ①ふるさとへの愛着をもち、しっかりと地域に根をはり、日本人として、秋田県民として誇りをもつ自己の確立を目指すこと。
- ②将来、社会の一員として市民意識をもった自立した大人になろう、という志をもつ人間を目指すこと。
- ③厳しい時代を乗り越え、たくましく生きていくための問題解決能力を身に付けた人間を目指すこと。

そのために小学校では、自律する力を養い、基礎学力を付けていくことに加え、児童一人一人の将来の姿を見通した上で、一人一人に焦点を当てた支援に努めることが大切である。そして、本校の課題を解決し、望ましい社会人を育てていくようにしたい。そこで、キャリア教育を中心に据えた全教育活動を通じた生き方指導をすることにより、自他の生き方を尊重し、より価値のある生き方を求め実践しようとする子どもが育っていくのではないかと考える。そこで、すべてを一元化し、キャリア教育の視点も含めた誰にでも分かる目標としたものである。

いきいき生きる わくわく学ぶ やさしくかかわる 岩谷の子ども

(1) 「いきいき生きる」とは…【成長保障】

急激に変化する時代を生き抜く力を身に付けることを目指している。志や夢、目標に向かって主体的に努力する子ども、ふるさとを愛し自分のよさを生かそうとする子ども、人の役に立とうとする子どもを育てたい。そのためには、多少の困難をものともせず乗り越える心身のたくましさが必要だと考える。

(2) 「わくわく学ぶ」とは…【学力保障】

自ら課題意識をもって主体的に探究し、獲得した知識や身に付けた技能を活用して、問題を解決していく子どもを目指している。その過程で、思考力・判断力・表現力等が育まれ、教科で身に付けた見方や考え方を広く活用したり、友達と学び合う活動を通して自らの学び方に反映させたりできる子どもを育てたい。

(3) 「やさしくかかわる」とは…【満足保障】

友達や仲間を互いに尊重し合い、高め合うとともに、敬意や感謝の心をもって、ふるさとの自然や歴史、人やものに接し、積極的にコミュニケーションがとれる子どもを目指している。自分に自信をもち、自分と同じように他者を大切に思うことのできる子どもを育てたい。

これらのことを実現するためには、全職員が共通理解に立った上で教育活動全般の見直しをもち、PDC Aサイクルを生かしながらステップアップさせていく必要がある。

また、家庭や地域との連携が不可欠であることから、各家庭には基本的な生活習慣やコミュニケーション能力の形成について、地域の方々には地域学習や生き方指導に関する支援について、それぞれ協力を依頼していく。地域の宝である子どもたちが、社会的・職業的に自立できるように全職員で取り組んでいく。

3 経営の重点「生徒指導の視点を生かした教育活動の推進（共通理解・共通実践）」

（1）いきいき生きる（成長保障）

- ①一人一人の活躍の場が保障され、居場所のある学級づくり（自己有用感・自己肯定感の醸成）
- ②ふるさと教育を基盤としたキャリア教育の推進（「志」「夢」「目標」をもたせる指導）
- ③意欲と向上心を高めるめあての設定と振り返り活動の重視（学校生活・学校行事等）
- ④保育園・小・中学校との効果的な連携による成長を連続的に捉えた指導
- ⑤コミュニティ・スクールによる地域とともに歩む開かれた学校づくり

（2）わくわく学ぶ（学力保障）

- ①カリキュラム・マネジメントを通じた教育課程の工夫
- ②「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善（生徒指導の視点を生かした授業）
- ③自ら計画を立てて学ぶ「さわやかタイム」の設定と授業における単元評価問題の効果的な活用
- ④基礎・基本の定着に向けた全校国語・算数テストの実施
- ⑤特別支援学級と通常の学級に在籍する支援を必要とする子どもへの適切な指導

（3）やさしくかかわる（満足保障）

- ①子どもの居場所があり、互いの気持ちが通い合う居心地のよい学級経営（共感的人間関係の育成）
- ②相手や場に応じたあいさつや返事、反応、言葉遣いの定着
- ③全教育活動を通じた道徳教育の充実（「特別の教科道徳」への取組、規範意識の向上他）
- ④家庭・地域との効果的な連携による人間関係形成・社会形成能力の育成
- ⑤「いじめ防止基本方針」の周知・徹底（未然防止、早期発見、即時対応、丁寧な見守り）

4 経営に当たって

（1）学校教育目標・目指す子ども像の意識化

- ①学年経営案や各教科・領域の経営案と学校教育目標を連動させ、すべての職務・教育活動は、学校教育目標・目指す子ども像の具現化に向けて行われるという意識で取り組む。
- ②特別支援教育への理解を深め、全職員が共通理解の基に「一枚岩」となって協力し、共通実践を心がける。

（2）PDCAサイクルの推進

- ①子どもの実態（学力、体力、人間関係等）を具体的に把握し、計画立案、共通理解・共通実践を行う。そして、子どもの学びや活動の状況を把握（評価）し、改善を図る。
- ②子どもの姿に責任をもち、指導すべき機会を逃さず、子どもの心に寄り添った指導を行う。

（3）保小・小小・小中の連携

- ①岩谷保育園・大内小学校・大内中学校との連携を効果的に行い、円滑な接続を推進する。
- ②大内中学校区での9年間のキャリア教育推進計画（ABCD運動）や育てたい力の系統表を活用しながら、成長や学びの連続性を意識した指導を行う。

（4）家庭や地域との連携

- ①コミュニティ・スクール機能を生かし、開かれた学校・地域に学ぶ学校を目指し、保護者や地域の方々と協働する。
- ②学校（自分）の立場だけでなく、保護者・地域住民等、相手の立場に立って考える。

（5）働き方改革の推進

- ①仕事の効率化を図り、業務分担の見直し、業務改善を意識的に行う。
- ②先を見通した働き方、時間を意識した働き方に取り組む。
 - ※ 遅くても18時30分をめどに退勤することを心がける。
 - ※ 1か月の平均時間外在校等時間（持ち帰り仕事時間を含む）45時間以下とする。

学校経営の方針

秋田県学校教育の指針

豊かな人間性を育む
学校教育

- 1 思いやりの心を育てる
- 2 心と体を鍛える
- 3 基礎学力の向上を図る
- 4 教師の力量を高める

保護者や地域とともに歩み、信頼される学校づくり

- 1 いきいき子どもたちが活動する学校（成長保障）
- 2 わくわく分かる授業を実践する学校（学力保障）
- 3 やさしさと達成感のある学校（満足保障）

由利本荘市の学校教育

人間性豊かで進取の気性に富むたくましい子供の育成

～科学的な探求心を育み、確かな学力を身に付けさせる教育の推進～

学校教育目標

いきいき生きる わくわく学ぶ やさしくかかわる 岩谷の子ども

目指す子どもの姿

◎いきいき生きる

- ・ふるさとを愛し、人の役に立とうとする子ども
- ・自分自身を見つめ、夢に向かって成長しようと努力する子ども

◎わくわく学ぶ

- ・課題意識をもって主体的に探究し、発信できる子ども
- ・めあてをもって学び、学び方を身に付ける子ども

◎やさしくかかわる

- ・友達を大事にし、協力してものごとに取り組む子ども
- ・思いやりの心を持ち、人の立場になって行動できる子ども

令和6年度の重点

生徒指導の視点を生かした教育活動の推進（共通理解・共通実践）

- ①一人一人の活躍の場が保障され、居場所のある学級づくり
(自己有用感・自己肯定感の醸成)
- ②ふるさと教育を基盤としたキャリア教育の推進
(「志」「夢」「目標」をもたせる指導)
- ③意欲と向上心を高めるめあての設定と振り返り活動の重視
(学校生活・学校行事等)
- ④保育園・小・中学校との効果的な連携による成長を連続的に捉えた指導
- ⑤コミュニティ・スクールによる地域とともに歩む開かれた学校づくり

- ①カリキュラム・マネジメントを通じた教育課程の工夫
- ②「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善
(生徒指導の視点を生かした授業)
- ③自ら計画を立てて学ぶ「さわやかタイム」の設定と授業における単元評価問題の効果的な活用
- ④基礎・基本の定着に向けた全校国語・算数テストの実施
- ⑤特別支援学級と通常の学級に在籍する支援を要する子どもへの適切な指導

- ①子どもの居場所があり、互いの気持ちが通い合う居心地のよい学級経営
(共感的人間関係の育成)
- ②相手や場に応じたあいさつや返事、反応、言葉遣いの定着
- ③全教育活動を通じた道徳教育の充実
(「特別の教科道徳」への取組、規範意識の向上他)
- ④家庭・地域との効果的な連携による人間関係形成・社会形成能力の育成
- ⑤「いじめ防止基本方針」の周知・徹底
(未然防止、早期発見、即時対応、丁寧な見守り)

研究主題

学びのつながりを意識して学習する子どもの育成
～一人一人の学びの充実を通して～

岩谷小学校の教員として(一校一心)

- 1 子ども心に寄り添った指導を行い、子どもの姿に責任をもつ教師
- 2 保護者や地域の期待に応え、信頼される教師
- 3 授業を工夫し、子どもに学力を身に付けさせることができる教師
- 4 子どもとともに歩み、子どもに満足感や充実感を与えることができる教師
- 5 教育公務員としての自覚を持ち、心身ともに健康で真摯な教師

由利本荘市立岩谷小学校 教育目標

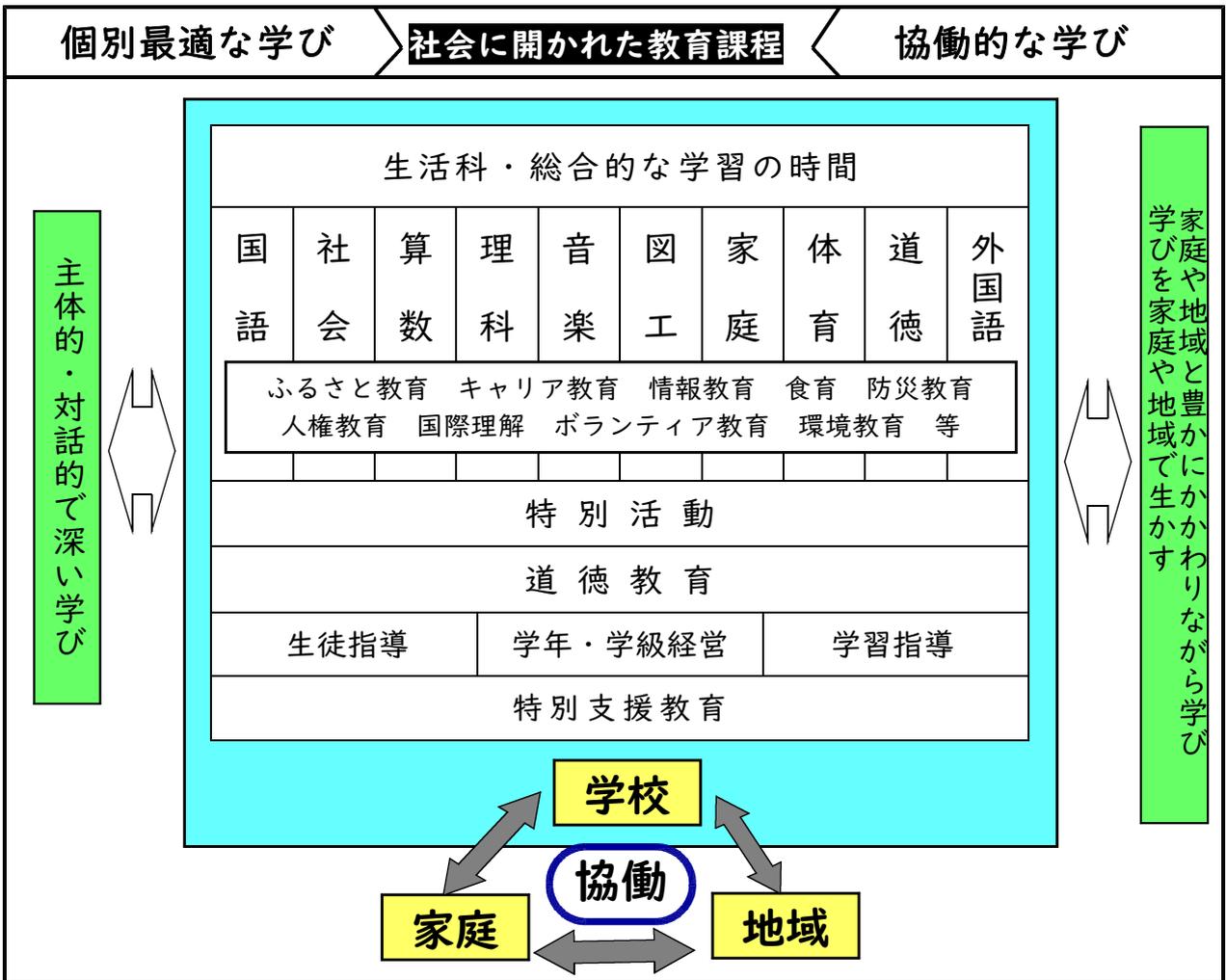
いきいき生きる わくわく学ぶ やさしくかかわる 岩谷の子ども

経営の重点

生徒指導の視点を生かした教育活動の推進（共通理解・共通実践）

付けたい資質・能力

教育目標 資質・能力	いきいき生きる 【成長保障】	わくわく学ぶ 【学力保障】	やさしく関わる 【満足保障】
知識・技能	ア ふるさとを愛する気持ちをもつ	ア 学び方を身に付ける	ア 思いやりの心をもつ イ 友達を大事にする
思考力・判断力 ・表現力等	イ 人の役に立とうとする	イ めあてをもって学ぶ	ウ 人の立場になって行動する
学びに向かう力 人間性等	ウ 夢に向かって成長しようと努力する	ウ 課題意識をもって主体的に探究する	エ 協力してものごとに取り組む



生徒指導の視点を生かした授業づくり

